

共に伸び、共に輝け、感謝・感動

しなやか えだわん

9月



えだわんだより

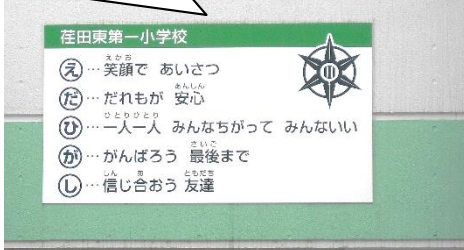
横浜市立荏田東第一小学校

◆〒224-0006 横浜市都筑区荏田東三丁目5番1号

◆Tel…045-941-7630 Fax…045-942-9464

◆<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/edahigashi1/>

校舎に貼られた「えだひがし」が新しくなりました！



「個別最適」を越えて

学校長 熊谷 潤平

誇らしげに、この夏の力作・大作を抱える子。休み明け、心も体もまだ起き切っていない子。元気に顔を上げ挨拶をする子。すっかり挨拶の習慣から遠ざかり、うつむき加減の子。8月29日のレンガ門には、夏休み明け初日ならではの「えだわん」の子たちの姿がありました。

長い夏休み。遠くに出かけて楽しい思い出を創った子も多くいるでしょう。一方で、様々な事情でほぼ毎日、出かかず家にいた子もあましよう。楽しく、うれしい夏休みだった子は、きっとたくさんいるでしょうが、正直あまり楽しくない、もしかしたら苦しい夏休みだったという子もいるかもしれない。また、8月29日の久しぶりの登校日が楽しみで仕方なかった子もいるでしょうし、憂鬱（ゆううつ）だった子もいるでしょう。学校だもの、社会だもの、一人一人それぞれ違って当たり前です。何はともあれ、元気に登校した子も、事情でお休みした子も、楽しい夏休みだった子も、そうでない子も、「ひとまず」大禍なく、この夏休みを終えられたことを、ありがたく、幸せに感じます。

令和3年度の生活状況調査によると、本校では「学校は安心できる」と答えた子は、9割弱でした。ということは、1割強は、「安心できない」と回答しています。学校をおおむね居心地よく感じているほとんどの児童には、より楽しく意欲的になれるように。学校を苦しく感じている子には寄り添い、一緒に楽しさや喜び・やりがいを感じられるように。

我々教職員も成長すべく、この夏休み中、「読み・書きが苦手な子」についての研修を行いました。講師をしてくださった作業療法士の松本政悦先生は、

「書字困難な子への対応として、①鉛筆の持ち方を矯正する ②漢字ドリル等で何度も繰り返し書く ③止め・はね・はらいを正確にさせる ④正しい書き順で書かせる…というのは、すべて避けたい対応です。」

とおっしゃいました。**しかしながら、教室の約9割の子には、上の①～④の対応はむしろ効果的である、**ともおっしゃいました。

読み・書きに限らず、学校には、教室には、様々な子がいます。また同じ子であっても、ある部分は平均・多数に当たる状況であっても、別のある部分が少数に当たる状況ということもあり得るでしょう。

昨年1月に、中央教育審議会が、「令和の日本型教育」と称して「個別最適な学びと協働的な学びの実現」を打ち出しました。この夏も、教育界では、「個別最適」という四字熟語が流行語のように飛び交っています。「そんなに簡単に『個別最適』なんて言ってよいのだろうか。」「そもそも『個別最適』とは、どの時点で最適なのか。授業中？年度末？遠い未来？そしてそれはだれが最適と判断するのか。子ども自身か、保護者か、教職員か。」ふつつつと疑問が湧いてこないでもありません。個に応じる、個別最適を求める道は、きっと果てしないのでしょう。楽しんでいる子・苦しんでいる子・何かが得意な子・不得意な子…夏休みが明け、心と体が大きくなった「えだわん」一人一人の喜び・幸せとは何か、考え、悩み、求め続けることこそが「真の個別最適」な学びを実現する道である、と思うところです。